

飛鳥資料館のみどころ（6）

- 秋期特別展示「古代の梵鐘」-

飛鳥資料館では、毎年春と秋の2回、特別展示をおこなっています。今年度の春期特別展示は奈文研ニュース12号でご紹介したように「飛鳥の湯屋」と題しておこないました。今回の秋期特別展示は、「古代の梵鐘」と題して、10月8日(金)から11月28日(日)の期間(会期中無休)で開催します。

当館は飛鳥地方の歴史と文化を紹介する歴史系博物館として昭和50年に開館し、これまで飛鳥時代にかかる文化財や発掘資料の公開と展示をおこなってきました。また、平成13年度からは東アジアの金属工芸史の研究をテーマに調査研究を進めております。今回、飛鳥時代・奈良時代の文化の理解と調査成果の公開を目的として、飛鳥時代・奈良時代の梵鐘をテーマに展覧会を企画いたしました。

飛鳥寺の建立(588年発願)にはじまる仏教文化の確立は、文化史上にも様々な変化をもたらしました。そのなかに寺院の建立とともに金属工芸品の登場もあげられるでしょう。梵鐘もそのひとつです。技術的にみても梵鐘をはじめとする大形の青銅鋳造品は、飛鳥寺の建立に参加した鑪盤工

にはじまる技術と推定されます。ただ、寺院のみにとどまらず、時報鐘として漏刻での使用が奈明朝(655 - 661)にみられるとともに、天武朝(673 - 686)には大鐘の貢献の事例も知られ、飛鳥時代社会の中で一定の役割を示していたといえるでしょう。

今回の展示では、飛鳥時代・奈良時代の梵鐘を金属工芸史の中で位置づけ展示をおこなうとともに、飛鳥時代から奈良時代にかけての梵鐘の変遷を、実際の梵鐘を展示することによって理解していただき、仏教導入期の日本における青銅製品生産の実態を明らかにすることを目的としています。また、梵鐘を吊る建物・鐘楼について、写真パネルで紹介するとともに東大寺鐘楼模型(1/10)も展示いたします。

展覧会を記念して国際シンポジウム「東アジアの梵鐘」を下記日程にて開催しますので、あわせてご来聴いただければ幸いです。皆さんのご来館をお待ちいたしております。

(飛鳥資料館 西山和宏)

<国際シンポジウム>

11月5日(金)午前10時から(参加費無料)

会場／橿原ロイヤルホテル

記録

埋蔵文化財センター研修

一般課程一般研修

平成16年6月15日～7月23日 12名

文化財写真課程専門研修

平成16年8月18日～9月17日 7名

古代交通遺跡調査課程専門研修

平成16年9月28日～10月6日 10名

遺跡環境調査課程専門研修

平成16年10月14日～10月24日 13名

現地説明会・報告会

キトラ古墳石室内発掘調査 報告会

平成16年7月24日(土)午前10時30分～5回報告

飛鳥藤原第134次(石神遺跡第17次)発掘調査

平成16年9月23日(木)午後1時30分～

平城第374次 名勝旧大乗院庭園発掘調査

平成16年9月25日(土)午後1時30分～

国際講演会

平成16年10月2日(土)午後1時～

-中国都城研究の最新成果-

白雲翔、安家瑠、汪勃、何歳利の各研究員
(中国社会科学院考古研究所)

講演会

平成16年10月18日(月)午後1時30分～

光谷拓実 埋蔵文化財センター古環境研究室長
「年輪年代法と歴史学の最前線について」
(NPO平城宮跡サポートネットワークと共に)

お知らせ

秋期特別展示

「古代の梵鐘」 於：飛鳥資料館

平成16年10月8日(金)～11月28日(日)

国際シンポジウム

平成16年11月5日(金)午前10時～

於：橿原ロイヤルホテル

「東アジアの梵鐘」

公開講演会

平成16年10月30日(土)午後1時30分～

町田 章 所長

於：平城宮跡資料館

「考古学よもやま話 -冥界への旅立 中国と日本-

中島義晴 文化遺産研究部研究員

「庭園の修復と復原整備」

豊島直博 平城宮跡発掘調査部研究員

「刀と剣の変化からみた古墳時代のはじまり」

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.jp>

Eメール jimu@nabunken.go.jp

発行年月 2004年9月